

稀祭「竹のからかい」

平成21年1月15日(木)

糸魚川市青海地域に於いて、小正月の伝統行事、国の指定無形文化財「竹のからかい」が行われました。冬らしい厳しい寒さの中、地元の熱意に支えられた素晴らしいお祭りでした。

小中学生の希望者も参加し、従来の地区(西町、東町)だけではなく、広い範囲からの参加となって、青海地域全体のお祭りに発展してきています。

古い資料によると

「毎年小正月に行われ、若衆等が二本の竹を絡ませて(合わせ竹という)勇猛に引き合い豊漁豊年を占う。小正月の火祭りである左義長、賽の神を通じて(左義長・三稜杖は禁中での小正月行事という)新年の再生を願う古式豊かな民俗行事であり、この地だけの稀祭である(七言絶句・上平声七虞の韻)」ということです。

去年は、年賀欠礼のため出席を遠慮させていただいたので2年ぶりの参加となりました。



竹のからかい保存会会長小野誠治さんの開会の挨拶で始まりました。横に映っているのは衆議院議員の高鳥修一さんです。補正予算案が衆議院を通過したので、駆けつけていただきました。

米田市長も遅れて駆けつけ、東京駅で2分しかないぎりぎりの日程で最後のところに間に合われました。



マイナス気温で風も強く、寒さ厳しい中での祭礼でしたが、両陣営ともに元気いっぱいの「竹のからかい」でした。若衆は、股引に晒し、袴纏という裸に近い恰好ですので、相当寒かったろうと思いますが、そんな素振りも見せずに活躍していました。



地元の中学生も参加し、うちの娘も元気に竹を引き合っていました。中学生は、洋服の上に袴纏を着せてもらっていたので、寒さに対しては多少はよかったですのですが、それでも寒そうにしていましたね。

国の祝日が法律改正により、1/15ではなくなったことにより、各地の小正月行事が困っています。成人の日としては第2月曜日でもいいかもしれませんが、小正月、藪入りはそういうわけにはいきません。休みと重なったときの観客は多くて非常に賑やかなのですが、この日は平日で、少し寂しい観客でした。地元の伝統行事、郷土愛を育て若者の定住を促進するという観点からも、国は休日について考え直して欲しいものです。



毎年のことですが、東西両陣営の打ち上げにも参加させていただき、相当に酔っぱらってしまいました。

写真は、東方の打ち上げ会場の黒板に書かれた八木さんの作品です。漫画家であり、落語家であり、今日の竹のからかいの司会としてマイクも持たれていた方です。色んな才能を持ち合わせておられます。元青海町役場の職員さんとは思えませんね。

途中で私の靴の無くなるハプニングもあったりして、思い出に残る行事でした。

青海の稀祭「竹のからかい」 国指定重要無形民俗文化財

青海の稀祭

紛紛雪裏竹擲掬 紛紛たる雪裏 竹の擲掬

隈貌薄衣軋曳徒 貌を隈どり薄衣 軋曳の徒

五道一望知往古 五道一望 往古を知る

徂年数百在神拘 徂年数百 神拘に在り

紛々……みだれ降るさま

雪裏……降雪のうち、なか

五道……親不知と云われた海浜の古道、
国道8号、北陸自動車道、JR北陸線、
北陸新幹線の5路線をさす

神拘……神とのかかわり



東西の竹を囲み「左義の蝶」
を声高らかに謳いながら、周
囲を廻る

写真は子供の部



2本の竹を交差し、その下を
観衆がくぐり抜け、無病息災
を願う



少年の部では、竹を合わせた
ときに怪我の無いよう、大人
達が厳しく監督する

写真：少年の部



2本の竹を絡ませて(合わせ竹
という)勇猛に引き合い、豊年
豊漁を占う。

写真：一般の部

越後の西端青海町（現糸魚川市）に国の指定を受けた無形民俗文化財「竹のからかい」があり、その伝承は数百年に及ぶという。毎年小正月に行われ、若衆等が二本の竹を絡ませて（合わせ竹という）勇猛に引き合い豊漁豊年を占う。小正月の火祭りである左義長、賽の神を通じて（左義長・三毬杖は禁中での小正月行事といふ）新年の再生を願う古式豊かな民俗行事であり、この地だけの稀祭である。（七言絶句・上平声七虞の韻）